



東京バプテスト神学校ニュース

Tokyo Baptist Theological Seminary news

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 ☎03-3947-5141 メール seminary@tbts.jp

今号のトピックス

今こそ、今から神学校で学び、果たすべき責任を果たしてゆきましょう

校長 松村誠一

東京バプテスト神学校を覚えてお祈りくださり、支えてくださり心から感謝申し上げます。

さて、皆さまにはずっとお祈りに覚えていただいております神学校の“教室問題”が今年7月に解決をみることができましたことまずご報告申し上げます。茗荷谷キリスト教会は神学校に対して2015年6月28日の教会総会において、2017年4月以降も神学校へ施設提供を幾つかの提案をもとに継続使用することを承認していただきました。その提案とは茗荷谷キリスト教会伝道開始40周年記念行事として会堂改修に協同するというものです。この「会堂改修」には神学校借用施設の改修も含まれており、神学校にとりまして施設、教室の改修は望んでおりましたのでこの提案をお受けすることで、“教室問題”が解決いたしました。

2階は今までの教室がとてよくなり、教室の数も3つに増え、学ぶのにとてよき環境となりました。またトイレやミニキッチンも新たに設けられました。このミニキッチンは仕事を終えて駆けつける学生の方々にはとてよき設備です。

「ちょっとカップラーメンをすすってから授業に出られる」と感謝の声が既に聞こえております。

また、3階には多目的ホールが新設されました。このホールは教会音楽科の教室として神学校も使用でき、教会音楽科の学生また教師にとりまして、さらによき学びが続けられると喜びに満たされています。

また、神学校の特色の一つである「ライブ授業」ですが、これまでの音が大きく、熱も出していて、あまり鮮明とは言えなかったプロジェクターに代わって、大型液晶画面を用いることになりました。液晶画面に鮮明に映し出される授業の様子を見ながらの学びは、以前より集中して、更に臨場感あふれる授業が展開されることでしょう。

さて、今日の諸教会の実情は、多くの教会が高齢化、そして若者の教会離れが激しくなっております。このとき、教会員がこぞって教会の福音宣教の業に仕える者とならなければなりません。今こそキリスト者として「果たす責任」を果たさなければなりません。当神学校は学ぶ環境がとてよくなりました。あとは「来りませ主よ」と祈る教会が、神学校で学ぶ学生を送り出してくださることです。主の御名があがめられますようにと祈りつつ。





組織神学を 廣島 尚先生が 担当して下さいます

2016年度前期開講の「組織神学Ⅰ」は廣島 尚 先生（日本バプテスト浦和キリスト教会主任牧師）が担当して下さいます。廣島先生は新潟生まれ。大学で物理学を専攻。外資系半導体メーカーに就職し、アメリカへの転勤中にノーステキサス日本語バプテスト教会（ダラス）でイエスさまに出会い、お連れ合いと共にバプテスマを受けられました。帰国後、マタイ14章に出てくる、嵐の湖の上を歩くペトロの姿を描く箇所に押し出されて献身し、退社して西南学院大学神学部で学び、卒業後、福岡教会、花小金井教会（日本バプテスト連盟宣教部国外伝道室長を兼務）での牧師を経て、現在浦和バプテスト教会主任牧師。力の弱い者や貧しくさせられている人たちが生きにくい世の中にあって、一つの命も粗末にされない神様の御言葉を共に聴き続けていきたいと願いをもって牧会にあたっている先生です。クールそうに見えますが、情熱的な先生です。神学校でも学ばれる方々に情熱を注ぎ講義をされることでしょう。

2015年度後期始業礼拝

2015年度後期始業礼拝が10月2日午後7時から茗荷谷キリスト教会礼拝堂で行われました。礼拝は教会音楽科の教師、学生からなる聖歌隊の賛美に続き、村中範光事務長が「安心していきなさい」と題してのメッセージ。そして後期から聴講生として学ばれる2名の方が紹介されました。お一人は恵泉バプテスト教会員の小浜麻里さん。教会では音楽の賜物を生かして奉仕をされていますが、この度一人でも多くの方々にイエス・キリストの救いを伝えたいという思いが強く示され神学校での学びを決意されました。

小勝琢生さんは調布南キリスト教会員。現在はビジネスマンとして活躍していますが、調布南キリスト教会の前田重雄牧師の牧会をお手伝いしたい、そしてゆくゆくは牧師として福音宣教に携わりたいとの思いに導かれて学びを始められました。主の召しに答えての学びが豊かに祝されますようにと一同の思いが込められての始業礼拝でした。

教会音楽科の主任、大矢公子先生が9月に辞任されました。先生は教会音楽科のみならず、神学校全体の運営に携わって下さいました。教会音楽科は勿論のこと、今の神学校は大矢先生の働きによるものが大であることを覚え感謝申し上げます。また、先生は辞任に際して「教会音楽の学びが豊かになるように」そして「茗荷谷キリスト教会が神学校と主の働きを協同して下さることへの感謝」の祈りをもってピアノを寄贈して下さいました。

9月26日（土）午後1時から目白ヶ丘教会で「神学校デー」が開催されました。今年の「神学校デー」は「神学校を覚えて、共に語り、共に祈ろう」のテーマでフォーラム形式で行われました。まず、神学校の松村校長から「東京バプテスト神学校の使命と目的～歴史をふり返って～」と題して発題がありました。1967年第21回連盟の年次総会で「東京福音宣教学院を日本バプテスト連盟立とする件」が議案として出され、議論が戦わされたが、最終的に否決となったことが紹介。それから東京地方連合は連合立神学校としての道を模索することになり、神奈川連合、北関東連合に財政的支援を求め、1988年から今の3地方連合立となったことを話されました。神学校設立当初の歴史からみても財政的支援は3地方連合によらなければならないことであり、3地方連合で神学校を支える協力献金の基準を早急に話し合っ

て欲しいと訴えていました。
使命と目的は「教会に仕える人材の養成にある。この人材養成のために『神学科』『教会教育科』『教会音楽科』『信徒リーダー養成コース』を設置。この使命と目的をもつ神学校として“生涯、教会の主と隣人に仕え続ける” “生涯、神学し続け

教会音楽科主任、大矢先生のお働きを感謝します

主のみ名を賛美します。

私こと大矢は一身上の都合で2015年9月末日をもって教会音楽科主任を辞任させていただきました。これまでのお支えとお祈りを心から感謝します。

神学校との関わりは私の人生の約半分。1983年から教会音楽科聴講生としてオルガンを2年間学び、第1回卒業演奏会に出演させていただいたのは懐かしい思い出です。1993年に本科入学、5年の学びを終えた後、教会音楽科教師、副主任、主任と16年間皆さまと一緒に学ばせていただきました。

前任者から主任を引き継ぐ話しを頂いた時は悩んで

は祈り、祈っては悩みの繰り返しでした。しかし、「私+無限大の神」が共におられるなら私がどんなに小さくても大丈夫との励ましを受け、真摯に歩んで参りました。

神さまは賛美をもって主を礼拝するようにと私たちに語りかけます。見えないものこそ神の目に尊いのです。今後とも御心に叶った礼拝を捧げるための学び舎として神学校の更なる前進を願って止みません。

大矢公子



東京地方連合と神学校との共催の「神学校デー」

る” “生涯、伝道し続ける” 人材の養成を目指す。」と。そして牧師は身分ではなく、職分であり、教会から牧師として招聘された時に牧師の職に就くのであって、キリスト者はどのような主の召しにでも、いつでも応えられるように神学を学ばなければならぬとの発題でした。

発題に続き北関東地方連合からは秋山信夫先生（上尾教会牧師）が「地方連合立神学校への期待」と出して次のように語っていただきました。

1. 残念なことに牧師として赴任して早い時期にトラブルを起こすケースがみられる。このようなことがないように教会の現場に適應する人材を育てなければならない。東バブは現役の牧師が先生として教えているので、神学的な思考を十分に伝えることが出来ると期待している。
2. 東バブが開かれた神学校になるために諸教会の神学校に対する期待と要望をもっと聞く必要がある。（一部のみ紹介）

神奈川地方連合からは坂元幸子先生（藤沢バプテスト教会牧師）は以下の期待と要望を語っていただきました。

1. 多様な献身を受け入れ育てるための神学校であり続けて欲しい。
2. 「私たちの神学校」となるために「3連合立」を明記する規定も必要ではないか。そして神奈川連合内の教



会で「出張授業」も計画して欲しい。（一部のみ紹介）

東京地方連合の鳥飼好男兄（市川八幡教会員）は

1. 日本バプテスト連盟（協力伝道体）の「伝道者養成」に、引き続きの積極的参与と協力を要請したい
2. 2. 卒業生の「継続研修」として西南神学部の特別研修制度、また宣教研究所主催の諸継続研修への参加を奨励されたいと語っていただきました。（一部のみ紹介）

少しPR不足もあり、出席者は少な目でしたが、出席者全員の神学校に対する熱い思いが感じられた「神学校デー」でした。

集中講義に参加される皆さん、一緒に学べるのを楽しみにしております。特に、二日間、同じテーマを巡っていくなかで、神学することの喜びも皆で共有できたらと思っております。



キリスト教倫理

2015年12月**28**日(月)~**29**日(火)

場所：東京バプテスト神学校（茗荷谷キリスト教会内）

講師：**寺園喜基** 先生

参加費 本科生：受講料 12,500 円
聴講生（及び一般の方）：受講料 15,000 円
*通信は+5,000円（通信手数料）

講師プロフィール

1939年 鹿児島県生まれ。西南学院大学神学部を卒業後、九州大学院で滝沢克己教授に師事。その後ボン大学に留学、同大学院博士課程修了。九州大学教授、西南学院大学教授として奉職後、西南学院院長、理事長2012年まで歴任。現在は福岡女学院院長。九州大学名誉教授、西南学院名誉顧問、福岡城西キリスト教会協力牧師。

後期のテーマは、「教会と国家」

カール・バルト著、天野有訳『教会と国家Ⅱ 反ナチズム/教会闘争時代』をテキストとします。前期は講義形式で行ったが、後期はゼミ形式で行いたい。それによって受講生はナマのテキストを味わうことになり、神学的思考の機微に触れることが出来、また参加者間の対話を通じて理解を深めることができる。各自テキストを用意して、予習しておくといっそう楽しく学ぶことができる。

ライブ授業をもっとライブに

教室に液晶テレビ

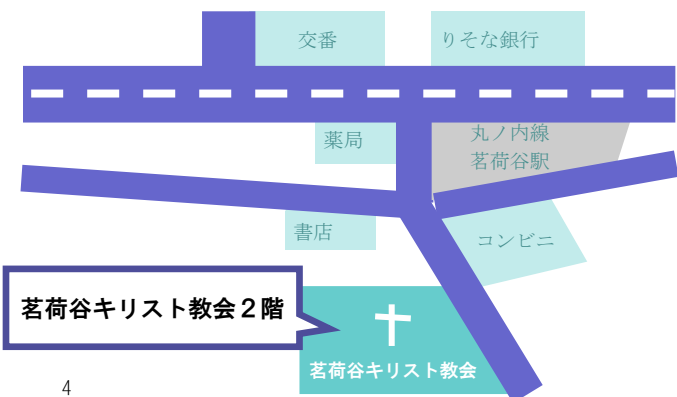


学びを応援

図書システムが スタートします

神学校の教室がリニューアルされました。

新しい教室にはプロジェクターに代わり液晶テレビが設置されます。ライブ授業の大敵であるノイズが軽減され、より臨場感のある授業が可能となります。また図書室では、より利用が簡単にできるよう図書システムを導入します。これからも神学生の皆さんが学びに集中していただけるようサポートしてまいります。



東京バプテスト神学校

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内
TEL : 03-3947-5141 FAX : 03-3947-5145

E-mail : seminary@tbts.jp



地下鉄丸ノ内線茗荷谷（みょうがだに）駅下車1分
駐車場の用意はありません。車での来校はご遠慮ください